

**下関市総合計画審議会**  
**第3回「活力・創生部会」 議事概要**

日 時	令和元年7月3日（水） 10：00～11：30
場 所	下関市役所本庁舎新館 5階 大会議室
出席者	下関市総合計画審議会委員 8名（欠席者4名） 下関市総合計画策定委員会 事務局（下関市総合政策部企画課）

**【次第】**

- 1 第2回専門部会における意見等への対応について
- 2 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について
- 3 第2次下関市総合計画前期基本計画 目標指標の達成状況並びに評価結果について
- 4 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）における目標指標の設定について

**1 第2回専門部会における意見等への対応について**

**2 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について**

**事務局**

（別紙1・別紙2を抜粋説明）

**部会長**

概要の説明をいただいた。何かご意見があればお願いしたい。

**委員**

別紙1 No.2前半で、『新生下関市の発足から15年が経過し、この間、「旧市」や「旧町」といった枠組みに捉われることなく』と記載されているが、出来上がった後にパブリックコメントや市民への説明会を実施すると言われた。私は豊浦町から来ているが、「旧市」と一緒になって良くなったことは水道代が安くなったことだけで、後は何らプラスがないというのが旧町民のほぼ一定した意見だと思う。それから、前回の会議後にいくつかの旧町に行ったが、下関市から旧郡部は置き去りであるといった声をものすごく多く聞いた。旧郡部の方の認識と、ここに書いている内容との格差があまりにも有り過ぎるのではないかと。旧郡部の方に一体感を持って取り組んできたと言われても絶対に納得されないと思う。このような書き方をされるということは、本当に旧郡部の方の気持ちを考えているのか、と凄く感じる。

別紙1 No.3は、書かれている内容が具体的に明記されているのか。

別紙1 No.4で、総合計画は「柔軟に対応してまいります」と記載しているとおり自由度があるとのことだった。では長州出島について拡大方向で見ているが、益が無いと見たときには拡大と反対方向の止めるという結論もあるのかということを確認したい。

別紙1 No.15の農業についてだが、「農薬については、安全かつ適正な使用を確保するため」と記載されている部分が私は納得いかない。勿論、使用してよい農薬もあるし農家の方は基準を守っていると思うが、国が本当に国民の健康を考えて農薬に許可を出しているのか、というのは大変厳しいものがあると思う。ラウンドアップは、障害児が生まれるとか精神障害を起こすと言われているものである。これについて、市としての考えはまるで無しに、国が問題ないと言っているのもそのままにするのか、それとも山口県あるいは下関市では先進的に農薬の使用をできるだけ減らす、このような農薬は使用しないようにということで進めていくのか。保護者にとっては、鯨を食べることが出来ることよりも、無農薬で安全な、地域で作った野菜を食べる方が遙かに魅力的なことだと思う。

別紙1 No.15については、「環境保全型農業直接支払制度」というものがあるが、農家の方でなければ意味が分からないと思うので、説明をしていただければと思う。

別紙1 No.16の放置竹林の問題についてもきちんと明記していただけるのかどうか。「検討してまいります」というだけで、一切表に表れないのであれば、意見を述べた価値がない。

## 事務局

別紙1 No.2について、旧豊浦町にお住まいの方が思っいらっしゃることを代弁していただいたということで、こちら側としてもそういった声が有ることを十分認識して、今後の市政に携わっていかねばならないと認識している。そのときに、総合計画の中への織り込み方は、やはりこれからも「一体感も持って努めてまいります」という表現が一番しっくりくるものではないかと今は思っている。ただ、ご指摘に関して、全くそのようなことはないと言うつもりは無い。もちろん出来ることは限られるため、ここに記載できることは限られるが、「一体感を持った市政運営に努めてまいります」ということで、ご理解をいただきたい。

別紙1 No.3で具体的に明記されているか、という点については、「旧市」「旧町」に拘っていない形で農業や水産業について記載している。エリアのことをまとめて記載しているので「旧市」のことはあるかもしれないが、敢えて分けて書いていないとご理解をいただきたい。そういった意味では、中山間地域のことも記載しているし、実際の業務で企画課が中山間地域について担当しており、具体的な取り組みも行っているため、是非ご理解をいただきたいと思う。

別紙1 No.4について、「柔軟に」ということに対しては、経済や社会の状況に変化に対応して変わっていくため、これに固執して絶対に変えないというものではない。今の方向

性は、経済状況や社会状況の中で拡大の方向で考えている。この先、これらがひっくり返ることがあれば、総合計画は議会での議決をいただくものであることもあるため、全てきちっとした手続きを踏んでそこを変える。動く前提の計画である。

#### **部会長**

農薬に関することは私も調べたが、日本は容認されている。特別にそのような引き合いが起きた事例もあるようだが、日本全体として農薬を使用しないというような方向にはなっていない。この計画にあえてラウンドアップなど危険な農薬を使用しないということは文言として書けないが、「安全かつ適正な使用を確保」と書いているので、それに準拠して進めていければと私は思っている。

#### **委員**

本筋とは関係ないことだが、今回いただいた素案について、修正部分の文字の色が違うが何か意味があるのか。

#### **事務局**

更新の事務手続きの関係で、入力者が異なることにより色が変わっている。大意はないので同じ修正という扱いでお願いしたい。

#### **部会長**

市が維持管理されている各施設について、規則によって利用の1週間前までに所管部署に申し込まなければならないことになっている。旧豊田町は空いていればその日に申し込んで利用することが出来たので、現在の運用では苦情が多い。旧豊田町は柔軟すぎたということもあるだろうが、合併して不公平さがあるので、空いていれば貸すことは出来ないのか。規則等々はあるだろうが、施設を住民サービスの拠点としサービス向上のためにも点検していただければと思っている。住民側に立った考え方をしていただかなければならないと思うし、それをしないことが合併後の懸念材料になる。合併して良くなかったと言われることは私も恥ずかしいばかりであり、小さいことから出来れば、大きな事業でもそう反対意見は出ないだろうと思う。

#### **下関市総合政策部**

運用のルールはある程度必要であるが、空いていれば柔軟な対応というのは当然必要だと考えている。

#### **委員**

2回にわたって駅周辺の活性化について申し上げてきたが、別紙1のNo.34で回答いた

だいている。私の頭の中にあったのは、玄関口である下関駅は、バスが駐車場のよう独占している状態ではなく、駅前広場的なものが必要ではないか。大丸側から郵便局側にまっすぐ行き来できることに加え、地下道については雨天や強風の日でもほとんど人がおらず、一定の役割を終えていると思うので、出口を塞げば有効な広さで活用できると思う。エスカレーターを撤去し、エレベーターを2基取り付けるなどの当面の改良ということだけではなく、駅前広場のバス・タクシー・レンタカーなどの棲み分け、漁港の改良が終わりつつある駅西口の開発、南交通広場の活用などを含めた大きなランドデザインが必要だと思っている。現状のままイベントを行って一時的に人を集めるソフト面よりも、地元の人や旅行者も平面導線で動ける中でイベントを開催すれば活性化するのではないか。そういうイメージがずっとあった。今後、立地適正化、コンパクトなまちづくりの計画もあるし、駅西口の賑わいに関する動きもあるのかなと思っている。

#### 部会長

言われたような事は、実施計画においてきめ細かに掲げていただければと思う。

#### 委員

第2章2ページ7行目、「適正な森林整備を推進」とある。針葉樹を切った後に広葉樹や落葉樹を植えると、治山治水等の役に立つし、有害鳥獣被害の対策、川から海に流れることによる綺麗な藻場の形成、二酸化炭素の吸収など、山は役に立つ資源と思う。山口県では税金（森林づくり県民税）を500円ずつ払っているのだから、県に言って下関市の山の空いている場所に広葉樹を植えられるようにしたらよいのでは。

#### 部会長

林業を産業に変えていかなければならない。広葉樹といえば椎茸の原木だが、自伐型林業は解りにくい。林業について、下関市の考え方は遅れていると聞いているが、自伐型林業で生計を立てにくく、新たな発想をしなければならぬ。自伐型林業など林業に関する事も、実施計画の中できめ細かく挙げていければと思う。実施計画は我々が注視すべき問題だと思う。

#### 委員

下関市の事業として実施することについては、記載することも出来るし実施計画を立てることも出来るが、事業主体が国や県などの場合は、下関市の総合計画に入れることも限度があると思う。ちなみに人工島については国の事業で、目的は関門航路の浚渫土を受け入れるということでこれからは事業が進んでいく。それから下関北九州道路についても、これは市道ではなく国道であるという考え方であろうから、市として必要、国として必要といった観点から事業が進められる。そのあたりは総合計画を立てる上でも限度があるの

で、常に考えながらこれを見ていく必要があると思う。

## 委員

いろいろ意見を聞く中で、私も考え方を改めるところがいくつもあった。先日、学生に出身地を聞いたら「下関」と答えた。よくよく聞いてみると、豊北出身とのことだった。今までは豊北出身の子は「豊北出身」と答えていたが、ようやく「下関出身」という子が出てきた。15年経過すると、物心ついたときから下関市という子が出てきている。このような子が多くなると、意見を頂戴した様なことが解決していき、一体となったまちづくりが出てくるという思いがある一方で、旧郡部に以前からいらっしゃる方はなかなか合併してどうだったのかとの意見がある。まだ、今の段階では旧郡部の意見に配慮しながら計画を作っていく必要があるという認識を改めて持った。私が寿命を迎える頃にはそのようなことも無くなってくるだろうが、今はまだ十分配慮する必要があると思っている。

## 部会長

時代が進めばそういったことは解消すると思う。私の私見だが、職員の考え方のあり方が大きく変化したのではないか。今までは公僕であり地域住民のために頑張っていたと思うが、最近は全員ではないにせよサラリーマン化し、時間内で与えられた仕事をすればいいと思っている。机上のパソコンとにらめっこして行政を推進しているが、住民と接する機会が薄くなっている。サラリーマン化したことで、市民の考えを受け入れる能力が欠如してきているのではないか。住民の皆さんからいろいろな話がされたときに、真剣にそこに行ってみよう、どうなっているのか、という積極性が足りない。「我々が調べておきます」ということではなく、すぐに行動するような職員を養成することが必要で、そういったことから「旧市」「旧町」という話が出てくるわけである。職員は異動があるが、その地域に早く慣れる、そういう職員の意識改革の研修が必要ではないか。総合支所に行ったときに「お願いします」と言うと「検討します」、二言目には必ず「お金がありません」と言い出す職員がいる。そういったことが、住民の方が置き去りにされたという印象を与えてしまう。

## 委員

別紙1 No.17で、都市型サービス産業ということで、コールセンターは立地的に下関駅周辺を中心市街地がよいと書いてあるが、この辺りは土地の価格が高いと思うしドーナツ化現象も進んでいると思う。下関駅周辺というのは、例えば九州に行くにしても都会から来るにしても、思うほどプラス面がある所だとは思えない。本来であれば新下関駅周辺など人口が移動している所を考えた方が良いのではないかと私は思う。

別紙1 No.18のjobフェアについて、農業などが置けないわけではない（対象を制限していない）と言うが、農業や漁業はこういう場合に企業ではないためブースを置くこ

とが出来ないと思う。こういう体験のときに参加できないのであれば、農協や漁協も頑張っているとは思いますが、何らかの別の形で農漁業に触れる経験をさせるのは如何かと思う。

別紙1 No.33について、「下関市にぎわいのまちづくり促進事業」についてしっかり広報していただきたい。実際、かなりの方が豊浦町や豊北町に移住されているが、これを十分に活用されていないような気がする。

別紙1 No.36で、反対賛成ではないが、下関北九州道路について、市民アンケートの結果だけではなく、企業にもアンケートを行ったと書いてある。市民アンケートの場合は具体的にどういう人にどのような調査を行ったかハッキリ解っているが、この調査は取って付けたようにアンケートをしたとのこと。アンケートを用いたのであれば対象がどのような人であったか、対象者によって答えが変わってくると思うので、きちんと出すべきではないかと思う。

下関が賑わっていたときという話が前回出たが、下関が賑わっていただけではなく、山陰のいろいろな場所でいろいろな産業があり、その集積地であるから下関が栄えた。現在、山陰の他の地域はどんどん枯れてしまっており、下関だけ賑わうのは難しい話だと思う。昔とは産業構造が変わっている。下関でお米を扱い、お米を送るのに人が待つ。人が待つから、そこにいろいろな人がものを持ってくる。ものを持ってくると、そこで売り買いがある。売り買いがあると、そこでものの消費があった。しかし今はそのような時代ではない。頭から反対するつもりではないが、長州出島について、そこが栄えると下関が栄え、下関市全体が栄えるといえるのかというのは大変疑問である。長州出島は国の事業ということではあるが、市税を全く投入していないわけではないと思う。今までいくらお金を使ってきて何時になったらいくらお金がプラスになるのかというのは、市民のお金を使っている以上はすぐにオープンに出来なければならないと思うし、それが実際にお金を稼ぐようになったときに、旧郡部が成り立っていける状況にあるのか。今、港湾にお金を使うのを旧郡部に使っていれば郡部が栄えたのに、港湾の方にお金を注いでプラスになったときには郡部には人がいないということになっていないのか。あるいは人がやって来ようと思っても、インフラが十分でないから旧豊浦郡には人が来られないという状況になっているのではないか。市全体を考えての計画であればそういうところもしっかり考えていただきたい。もっと公平に見て欲しいと思う。見方にずいぶん偏りがあると思う。

#### 下関市総合政策部

先程の職員の意識構造の研修について、市長からも「財源が無いことを言い訳にするな。市民の思いをちゃんと受け取ってから、何が出来ることかよく考えて対応するように」と指示されているところであり、肝に銘じてやっていかなければならないと思っている。

それから旧郡部では合併のメリットがないというご意見をお聞きしている。前期基本計画の中で基本となる基本構想があり、その中に地域づくりの方向性ということで、市全体でどう進めていくかという考え方を示している。その中で合併以降、下関市は豊富な観光

資源や、安全安心な農林水産物、あるいは豊かな自然などを活かして活性化していこうと、過疎債など有利な財源を活用して道の駅を整備したり、角島周辺の環境整備など、観光中心ではあるが交流人口の増であったり、基幹産業である第一次産業の生産消費拡大などに取り組んできた。角島や道の駅がある程度注目を浴びてきて一定の効果が上がってきていると思うが、住民の方の意見を聞くと、買い物の交通の便や通院機会の確保、情報環境など、生活に密着した要望がまだまだあるし、こちらとしても十分に認識して取り組んでいる。考え方としては、それぞれの地域特性を活かしたものを活性化することで、市全体の活力を作っていこうという基本的な考え方を基本構想の中で示しているし、後期基本計画も基本構想に基づいて計画を作成している。皆様の考え方も、基本構想に基づいて実施計画や事業の構築などで進めていきたい。ですから、後期基本計画を策定する際も基本的な構想は、地域特性とまちづくりの方向性を示した基本構想の部分は、しっかり理解していただけるような書き方や見せ方をやっていかなければならないと考えている。

## 委員

第2章7ページ、9～10行目に「生存率」という言葉を使っているが、これはどうなのか。「生存率」という言葉は、人の生き死で使う言葉だと感じた。

第2節について、「現状と課題」「基本方向」で民間団体の育成・支援に関する記載がなく、「施策体系図」と「各事業の方向」で突然、民間団体の育成・支援が出てくる。施策や各事業は課題があって初めて出てくると思うので、課題として書き込まなければまずいのではないか。

第3節についても同様で、「現状と課題」「基本方向」で勤労者福祉の向上に関する記載がない。課題として謳っておくべきではないか。

第5章第6節の港湾の振興についても、課題として「災害に強いみなとづくり」が必要ではないか。

## 委員

話は戻るが、西村委員が言われた「移住者が結構いる」という話で、どのくらい移住しているのか把握されているのか？

## 委員

私は旧豊浦郡のことしか判らないが、豊浦町に移住してきた方を「ようこそ豊浦へ」として広報誌に昨年から書いており、その中で10人ほど紹介している。数は少ないと思われるかもしれないが、広報に応じてもらえた方ということで、豊北の方もそれなりにいらっしやと思う。

## 委員

想像よりも多かったと思う。別紙1 No.33のにぎわい創出について、山陰や豊田、豊浦地域に注力してくれという話もそうだと思う。ただ、30代の感覚で言うと、そこが栄えていたものが集積して下関の中心市街地が栄えているという意見は違うと思う。それよりも地域の特性を活かしてそれぞれが生きていってボトムアップに繋がっているという感覚の都市構造になっているのではないかと。要は豊浦地域や豊北地域などで独自の何かを生み出した方々が、中央に対して発信している構図はすぐに出来るので、均等でも人口比でもないが、少しずつ補助をしていくことが大事だと思う。それでいけば、にぎわい創出については起業について出されている感じがあり、その後の展開支援は産業振興の部署が中心となってされていると思うが、それがもっと盛んになれば中央や海外は固有の情報に興味を持っているような気がする。下関にとっても良いと思う。なので、産業構造というか都市構造は言われたこととは違うのではないかと。

## 部会長

田尾委員が言われたように、全体として人口が減っている。魅力ある下関を作るためには空き家の利用が必要だと思う。豊田町では町費を使って、彫金師や画家、陶芸家が札幌の三越にて活躍していることを示していただいた。積極的にそういう方々を世に広めるためにも、行政サイドが応援すると違った面ですばらしいところだと認識してもらえないか。空き家を再生する取り組みがほとんど無くなり、取り壊すところが増えて歯抜け状態になっている。空き家対策の徹底がPRできれば、魅力ある下関市の再構築に繋がるのではないかと。

## 委員

移住者が多く、県外から来られた方が市の補助金をあまり使われていないという話が現場から出たのはまずいと思う。にぎわい創出の空き家対策の補助金を、市内の方が豊北や豊田で使っている状況のようだ。総合支所との連携がどこかに入ってきて、独自にアクションを起こしていかないと、市民の方が何かあったら市役所に行くという世代ではなくなっている感覚があるので、工夫されれば利用が増えるのではないかと。

## 部会長

空き家を借りて事業の補助金を受けていない人に対して、行政が積極的に会いに行つて「こういう制度がある」という話をすべきで、旧豊田町ではやっていた。コンパクトな町なので、足で稼いで説明して、事業の補助金を使つていただく。過疎やへき地などの補助金を総合的に活用していけば、負担が少なくより大きな経済効果が得られる。

### 3 第2次下関市総合計画前期基本計画 目標指標の達成状況並びに評価結果について

### 4 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）における目標指標の設定について

#### 事務局

（別紙3・別紙4を抜粋説明）

#### 委員

確認だが、別紙3 No.15の市内中心市街地とはどこを指しているのか。そもそも、人の流れがかなり変わっているので、駅周辺を指しているのであれば、今はそこまで行かなくても買い物を済ませてしまう人も多いので、達成が難しいのではないかと。

また、別紙3 No.35で、今後の方針としてリサイクル等について出前講座を行うとあるが、出前講座が土日はダメだと夕方以降はダメだとすると、日中家にいる人しか受けることが出来なくなるので、何とかして欲しい。

それから全般を通してだが、コンパクトシティという言い方が私の感覚と違う。下関の中に全部集約するのではなく、それぞれの郡部の中でも中心を担うところがあり、そこまでの交通は市がきちんと確保して、そこそこが賑わうというのが私の中のコンパクトシティだし、昨年か一昨年に開催された県のコンパクトシティに関する説明会での発言もそうだった。市がコンパクトシティというときは、常に旧市内の一部にもものが集まるのをコンパクトシティといっている気がする。

別紙2 No.4やNo.6の交通について、鉄道駅のバリアフリー化がどのようなことを指しているのか。また、今後の方向性で新たな交通網を考えるとのことだが、例えば横野をハブにして行き帰りのバス、横野から下関市内のあちこちに行くことが出来るバスという形で、乗り換えに不便を生じるが、全部1本ではなく、いくつかのハブ地点を設けてそこまでの便を一日何便か確保するというやり方が結構あると思うが、そういうことをお考えなのか。

#### 下関市都市整備部

交通関係に関するご質問について。鉄道駅のバリアフリー化について、現在幡生駅についてJRと協議しているが、エレベーターや点字ブロックの設置を検討している。バス路線についても、今年度再編の実施計画を検討しており、ハブ化を含めて乗り換え地点などを検討している。

#### 下関市環境部

出前講座だが、30年度の実績は13回、720名の方に対して実施した。出前講座は市の職員が行うので、原則は平日ということになるが、ある程度団体の規模があれば、土日でも赴くことも可能なので、適時受け付けたいと思っている。

## 委員

駅のことだが、阪神など関西の鉄道は、跨線橋を造らずに駅の構内に小さな踏切を作っ  
て、上下の移動をせずに出入りが出来るようになっている。関西で出来るのにどうしてこ  
ちらで出来ないのか、跨線橋があるために隣駅までタクシーで行って列車に乗るというの  
が黒井村の現状。

## 部会長

全般的には書いてあるとおりで良いと私は思っている。

## 委員

別紙4の指標の設定だが、No.1 1が農業の担い手で、No.1 2が指標の内容は変更された  
が水産業の関係。林業は指標が無いのは手落ちに感じる。変更が無ければ何も考えなかつ  
たが、一次産業は大事だし、林業に少し力を入れるのであれば、農業、水産業が来たら林  
業の指標もあった方が良くはないか。

## 部会長

オブザーバーを含めて何か意見はないか。

## 下関市総合政策部

情報というか、市民に伝わるのが大事。今年、本市は情報発信強化元年と位置づけて  
おり、情報を発信するだけでなく、職員も出向くようにしてできるだけ市が持っている情  
報施策、声を伝えて活用していただけるようにしていきたい。

## 部会長

意見が出尽くしたようなので、次のステップがあれば事務局から説明をお願いしたい。

## 事務局

今後の審議会の進行について、専門部会が3回から4回ということでご案内を差し上げ  
ていた。審議の状況に応じて専門部会毎に回数が決まるということで、今回は3回目であ  
る。4回目の開催の有無について、皆様方にお謀りしたい。審議が今回で終了というこ  
とであれば、ご意見について8月19日に実施する部会長協議に委任していただきたい。

## 部会長

私の感じ方では、意見がほぼ出ていると感じている。皆様の意見について私が責任を持  
って処理をさせていただくということで良ければ今回で終了したい。

全委員

(異議無し)

部会長

それでは今回で終了ということで、事務局から今後のスケジュール等について説明をお願いしたい。

**事務局**

委員の皆様には本日の内容についても議事録という形で資料をお送りする。意見をいただいた際には、部会長協議に提示する。

今後のスケジュールは、8月中旬に部会長協議を開催し、専門部会毎の意見の摺り合わせ、意見交換、審議会からの答申に向けた論点整理を行う。部会長協議のメンバーは審議会の会長、専門部会の部会長と副部会長となる。9月には審議会委員の皆様からご意見をいただき、後期基本計画の原案を作成し、市議会に対して中間報告を行う。同時にパブリックコメント、市民への説明会を実施する。10月に2回目の全体の審議会を行い、第2次下関市総合計画後期基本計画の答申をいただくように考えている。

**部会長**

それでは第3回の専門部会を終了したい。この計画が市にとって、将来夢のある、夢が実現するよう、そして皆様の意見が反映できるよう実施計画を持って将来の発展に尽力したい。

**事務局**

部会長、副部会長は8月に部会長協議があるのでお願いすることになるが、それ以外の委員の皆様については、10月の審議会全体会議にご参加いただきたい。

**部会長**

今回の意見について、私が責任を持って対応するので、部会長協議に出す意見について事前に委員の皆様にも送ってもらえないか。

**事務局**

部会長会議直前か、あるいは同時になるかもしれないが、本部会に関係する内容については委員の皆様にお送りする。

以上